

Information

イベント情報

6月	6/19 (木) 18:30~20:30	第1回まちカフェ!実行委員会 全体会議 町田市役所3階会議室 まちカフェ! 参加申し込みはこちら▶
Pickup Event	6/23 (月) 19:30~20:30	まちだのコーディネーター研究会 第0回(プレ研究会) 「コーディネーターここが知りたい!」 オンライン コーディネーター研究会のすすめ方について検討します。
7月	7/3 (木) 13:00~20:00	まちカフェ!ナイトオープンデー 町田市役所2階 市民協働おうえんルーム (13:00~17:00) 町田市役所2階 2-1会議室 (17:00~20:00) 13:00~14:30 インクルーシブ研究会「障がいと共に働く」 【ゲスト】就労移行支援事業所ワン・ブリッジ町田 18:30~19:30 イベント企画塾〜ワンランクアップ編
Pickup Event	7/17 (木) 18:30~20:00	まちだのコーディネーター研究会 第1回 「コーディネーター徹底解剖」 対面(定員10名・町田市地域活動サポートオフィス) オンライン 安達聡子さん 陽だまりカフェオーナー・地域の多世代をつなぐコーディネーター 江藤佑さん 桜美林大学LA学群/サービスマニエーションセンター教員・学生と地域をつなぐコーディネーター
	7/22 (火) 18:30~20:00	みんなの経験共有vol.24 「未来につなぐ感動の演劇 〜NPO法人町田演劇鑑賞会のあゆみ〜」 オンライン

これから開催するイベント一覧です。
詳細やお申し込み方法は、サポートオフィスHP内の「イベント」ページをご確認ください。



Pickup Event

まちだの コーディネーター研究会

学校、福祉、地域、市民活動と様々な場面で活躍する「コーディネーター」の役割に着目し、スキルや心がまえなどの専門性について考えます。毎回数名のゲストヘインタビュー形式でお話を伺い、参加者同士で情報交換しながら学びを深めていきます。

こんな方をお待ちしています!

- ☒ コーディネーターを職業としている方
- ☒ 他分野のコーディネーターとつながりたい方
- ☒ 様々な形で地域で人をつなぐ役割をしている方
- ☒ 地域で人をつなぐ役割に関心のある方

詳細・お申し込み
はこちら▶



スタッフが日々の生活や仕事の中で見た、聞いた、感じたことを読者の皆さんにちょこっとシェアします。ぜひお楽しみください。

サポートオフィススタッフ Note No.2



杉山久美子

6月生まれなので、梅雨時期が意外と好きです。毎年梅干しをつくっているの、梅雨時期は梅仕事をするのもまた楽しい♪

「私のトリセツ」

サポートオフィスでは、新メンバーが加わったときや年度の変わり目に「私の取扱説明書(トリセツ)」をつくり、シェアする自己紹介タイムをよく持ちます。主な項目は「私の特徴(得意・自慢できること)」「故障かな?と思ったら(こういう時は困っています・悩んでいます/対処法)」「安全上の注意(こういうことをされちゃうと故障につながるかも!)」など。10分程度でざっと書き、一人ずつ共有します。何回やっても「そうだったんだ!」と新発見と笑いが絶えない時間になります。今年度も新メンバーと共にこの時間を持ち、私の職場に対する心の安全基地も再確認することができました。ちなみに私の得意なことは、誰とでも話せることといくらでもぐうたらできることです。

私の取扱説明書

私の特徴、得意

私の故障かな?と思ったら

安全上の注意

▲ツールがあることで、初対面の人もさほど緊張せず自己紹介ができますよ。

●まちだづくり応援基金へのご支援ありがとうございます!直島朋弘様(マンスリー)、横竹将文様(物品寄付)、ニットの会様(まちカフェ!売上寄付)

町田市地域活動サポートオフィスでは、地域活動に関する悩みや相談を受け付けています。電話やメール、または直接来所して相談することができます。



町田市地域活動
サポートオフィス

MAIL info@machida-support.or.jp

TEL 042-785-4871

月〜金 午前9時から午後6時(毎月第三水曜日は午後5時まで)

〒194-0013 東京都町田市原町田4丁目9-8 町田市民フォーラム4階

最新情報はホームページや各種SNSでも発信しております。



友だち登録募集中

https://machida-support.or.jp



まちだづくりのコミュニケーション誌

サポートオフィス 通信

一般財団法人町田市地域活動サポートオフィス 発行

2025 JUN vol.58

公式LINE
始めました



友だち登録で
最新情報配信中!



▲受け入れ団体向け説明会の様子

Now | 近況報告 |

まちだの地域ぜんぶが、あなたのキャンパス! 「まちだ地域まるごとキャンパス」はじまります!

まちだ地域まるごとキャンパス(通称:まるキャン)は、町田全体を「キャンパス」ととらえ、高校生・大学生等の若者がボランティア・市民活動団体や町内会・自治会活動、地元企業が提供する体験プログラムに参加し、ともに活動することで、よりよい地域社会をめざす今年度初のプログラムです。

5月1日には受け入れ団体向け説明会を開催し、28名の方々にございました。プログラム内容のほか、若者とともに活動するコツについて活発な質問や意見交換が続き、参加された皆さんの関心度の高さがうかがえました。

活動スケジュール

1DAYプログラムと3DAYSプログラムを
下記の日程で進めていきます。

- 7/8(火) 学生向け説明会@町田市内会場
- 7/20(日) 活動先希望申込締め切り
- 8/1(金)~8/30(土) 1DAYプログラム活動期間 ※8/30(土)1DAY活動報告会
- 8/1(金)~12/21(日) 3DAYSプログラム活動期間 ※12/21(日)3DAYS活動報告会

今年度の受け入れ団体募集は締め切りでしたが、
来年度以降も継続して実施する予定です。

参加学生は
募集中です。
詳細はこちら▶



▲まるキャンのロゴとメインイラスト。若者が参加したくなる雰囲気のあるデザインです。

担当橋本からのコメント



前身となる「まちカフェ!学生おうえん隊」から発展し、学生が地域活動にさらに参画しやすく、団体の皆さんが受け入れやすくなるプログラムをつくりました。一緒に盛り上げていただけると嬉しいです!

今日から
実践できる！

団体活動に新しいメンバーを受け入れるコツ

団体の活動をさらに充実させ、持続可能にしていくために、新しいメンバーを増やしたい・若いメンバーにも活動に参画してもらいたいと思っている方も多いのではないのでしょうか。今号では、若者ボランティアの受け入れを題材に、新規メンバーに安心して参加してもらうための「受け入れのコツ」と実際に学生さんと活動した団体の事例をお伝えします。若者を受け入れるときに限らず、自団体のメンバーと異なる世代や背景をお持ちの方と一緒に活動するときのヒントにしていいただければと思います。



01 コツ 顔合わせ時にお互いの心配を解消しよう

初めての活動は誰しも緊張するもの。活動を行う上で必要なことや注意点は、あらかじめ時間をとってお話する機会を設けましょう。



▲学生を受け入れた〈Bamboo Village Farm〉では、顔合わせの際にみんなで畑を回り見学を行いました。一緒に現場を見ることでイメージも膨らみ、その後の企画アイデアのヒントになりました。

- 最初にお互いについて話そう
- ✓ お互いの自己紹介（ニックネームなど呼び方も決めておくと◎）を行う。
 - ✓ 一緒に身体を動かす、活動の現場を一緒に見るなどアイスブレイクを行う。
 - ✓ 活動内容やスケジュールの共有を行う。
 - ✓ 連絡ツール（メール、LINE等）や、連絡可能な時間帯を確認する。
 - ✓ 活動中に困ったら誰に連絡をするといいかを確認する。
 - ✓ 活動中の注意事項等を伝える。

02 コツ 活動の内容や取り組む背景を丁寧に伝える

活動への参加のモチベーションは、「共感」や「納得感」から生まれます。活動に取り組む社会的背景やメンバーそれぞれの活動に対する想いを伝える機会も持ちましょう。

Action Point

- ✓ 資料やパンフレット、活動時の写真や映像、実際の活動内容を見せながら伝えられると◎。
- ✓ お互いの年齢や経験の違いなども踏まえ、相手に伝わる言葉で伝える。
- ✓ いろんな情報を吸収してもらうと、アイデア出しの充実にもつなげる。

▶ 新メンバーを迎えた〈like minds〉での顔合わせでは、団体の主活動である「対話のワークショップ」を体験していただいたことで、活動内容をより具体的にお伝えすることができたそうです。



03 コツ 「一緒に考える」姿勢を大切にする

「とりあえずやってみて」より「一緒に考えよう」と声かけをすることで、安心して活動に取り組めます。

Action Point

- ✓ 「●●について考えていきたいんだけど、どう思う？」等と問いかける。
- ✓ 新メンバーから発言があった際は、しっかりと受け止める。自分の意見を聞いてもらえたというだけでも、活動に参加した達成感につながります。



case study —事例— 01

無料サイトを使用したスタンプラリーの考案 まちだサポーターズと大学生

団体内での課題

町田市市民協働フェスティバルまちカフェ! 全体を盛り上げるため、毎年スタンプラリーを実施しているまちだサポーターズ。一昨年は来場者数が読めず、スタンプラリー台紙の準備に苦勞していました。



▲本番ではおそろいの名札を付け、ともに取り組む仲間として一体感がありました。

相談したことで実現したこと

学生さんに課題を伝えたとこ、スマホがあればできる無料スタンプラリーサイトの活用が提案がありました。準備を重ね本番で運用し、イベントは大成功! 団体の困りごとや解決したい課題を伝えることでアイデアにつながった事例です。



▲二次元バーコードを大きく掲示しスタンプラリーを実施。

学生さんより

電子版のスタンプラリーの作成に携わりました。イベント当日は多くの方がスタンプラリーに参加してくださりととても嬉しかったです。初めてのボランティアだったこともあり緊張していたのですが、団体の方のサポートが手厚く優しい方ばかりだったのでもっと楽しく活動することができました。

case study —事例— 02

わかりやすいゲームのルール考案 町田市ユニカール協会と大学生

団体内での課題

誰でも参加できるユニバーサルスポーツの1つ「ユニカール」の体験会を開催している町田市ユニカール協会。まちカフェ!のような大規模イベントで、子どもにも簡単に思いっきり楽しんでもらいたいが、ユニカールのルールは複雑で1ゲームに時間がかかってしまうため、何か良い方法がないか検討していました。

相談したことで実現したこと

学生さんにユニカールを体験していただき、団体の課題感を共有。子ども向けのオリジナルルールを考えてもらい、まちカフェ!前に試行してみたところ、子どもにも大好評だったそうです。体験・検討・実践の流れをうまく作ることができた事例。「失敗大歓迎!なんでもやってみよう」という声かけにより、学生さんは安心してチャレンジできたようです。



▲イベント当日、学生考案のルールで子どもたちも楽しむ様子が多く見られました。

学生さんより

高齢者や障がいをお持ちの方だけではなく、子どもにも楽しんでもらえるイベントやルール作りを企画する経験は日常であり得ることができないため、非常に貴重な体験をさせていただきました。活動に参加させていただいたことで、広い視野を持つことの大切さを学びました。